

[成果情報] 富士北麓地域における野菜の新作型(3作モデル作型の開発)

[要約] 圃場が狭く無霜期間が短い富士北麓地域において土地産性向上を図る新たな作型として、1作目の葉菜類にパンチトンネルを用いて4月上旬から4月中旬に定植し、3作目を8月下旬から9月上旬に定植することで、スイートコーン、エダマメを基幹とした同一マルチ利用による年3作栽培が可能である。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・岳麓試験地・渡辺 淳

[分類] 技術・普及

[課題の要請元]

富士・東部農務事務所

[背景・ねらい]

富士北麓地域では「富士山やさい」ブランドとして出荷が始まっており、本地域での野菜生産量、品目の拡大が急務である。特にスイートコーンは観光客向けなど夏場の主幹作物となっている。また、エダマメも観光客の人気が高く、今後の需要が見込まれる。しかし、本地域は畑が狭くまた点在しているため作業効率が悪く、さらに無霜期間が短いため土地生産性が低い。地域の基幹品目であるスイートコーンを栽培すると、同一圃場でその他の野菜を栽培することは難しい。そこで、基幹品目としてスイートコーン、エダマメを栽培し、前作と後作に適する品目や栽培時期を検討し、年3作が栽培可能な作型モデルの開発を行った。

[成果の内容・特徴]

- 1.1 作目の葉菜類はブロッコリー、レタスが適し、パンチトンネルを設置し、4月上旬から4月中旬に定植する。収穫は5月中旬から6月上旬にできる。3月下旬定植も可能だが生育・品質は劣る。
- 2.2 作目の基幹品目であるスイートコーンとエダマメは5月下旬から6月上旬に定植すれば、収穫は最も需要の高い8月上旬から8月中旬出荷となる。
- 3.3 作目の葉菜類はブロッコリー、レタス、ハクサイが適し、8月中旬から遅くとも9月上旬までに定植すれば収穫は10月中旬から11月中旬にできる。1作目に用いたパンチトンネルを使用することで在圃期間は延長する。9月中旬以降定植すると収穫に達しない。
4. 基幹品目の直まき栽培は、在圃期間が長くなり3作が困難となるため移植栽培とする。
5. この3作モデル作型は都留市(標高500m)、富士河口湖町河口(標高841m)、富士河口湖町勝山(標高890m)、忍野村(標高950m)で適応可能である。

[成果の活用上の留意点]

1. 適応範囲: 富士北麓地域の標高500~950m
2. 供試品種には主にスイートコーンが「恵味ゴールド」、エダマメが「湯上がり娘」、ブロッコリーが「ピクセル」、レタスが「鴨川」、ハクサイが「無双」など用いたが、地域に適応した品種を選択する。
3. 基幹品目にスイートコーンを作付けする場合の施肥は成果情報「ブロッコリー・スイートコーン・ブロッコリーの栽培体型における3作1回施肥法」を参照する。しかし、基幹品目にエダマメを作付けする場合は3作1回施肥法は使用せず、1作目に必要な施肥を行いエダマメは無施肥とし、3作目定植時に必要量を追肥する。
4. 3作栽培を行うには育苗を行わなければならないため、計画的に播種時期、定植時期を決めておく。
5. 育苗期間は1作目葉菜類がおおむね35~40日、2作目がスイートコーン25日程度、エダマメが25~30日、3作目葉菜類が20~25日程度である。定植時の苗の老化や早植えに留意し、は種は計画的に行う。

[期待される効果]

1. 富士北麓地域でスイートコーン、エダマメを基幹とした同一圃場で野菜の3作栽培が可能となり、土地生産性が向上し農家経営の所得向上が図られる。
2. 施設化を図ることなく品目拡大が可能となるため高齢者や新規参入者にも導入が可能である。
3. 富士山野菜の産地強化につながる。

[具体的データ]

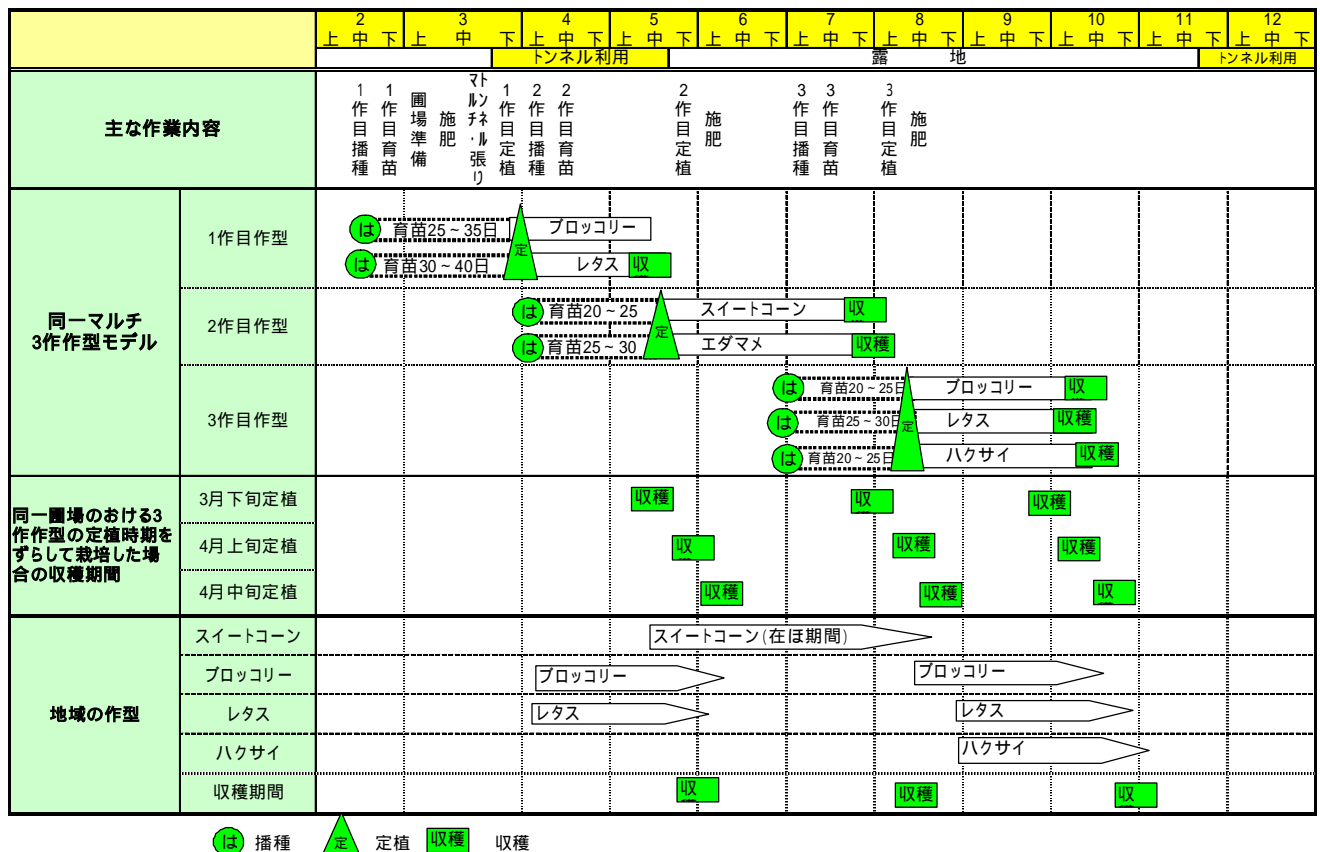


図1 同一マルチ3作作型の体系図

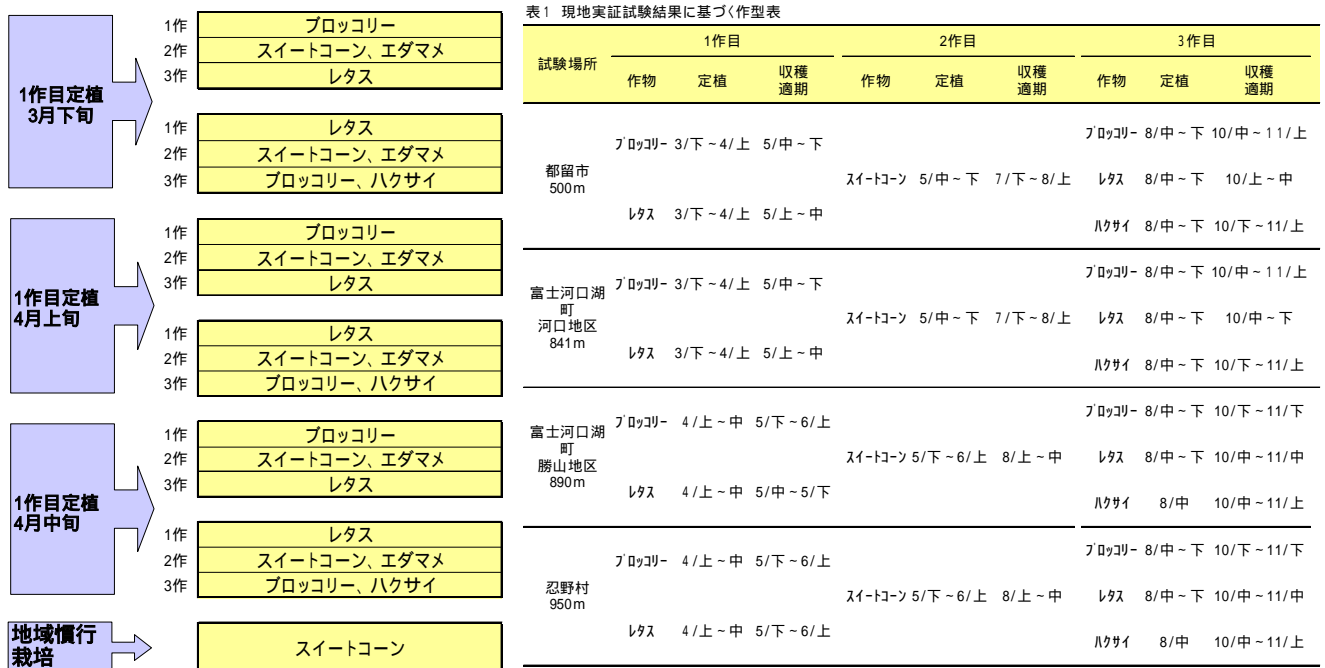


図1 3作型導入による限られたほ場の有効活用

[その他]

研究課題名: 高標高地におけるスイートコーンと葉物野菜の組み合わせによる新規作型の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2011~2013年度

研究担当者: 渡辺 淳 長坂克彦